平成２９年度　学校評価（最終評価）

三次市立布野中学校

１　経営理念

□　学校教育目標
　確かな学力を持ち，夢や志に向けて能動的に活動する生徒の育成
□　めざす学校像
○信頼される学校
①安心・安全な学校（自他ともに安心して，楽しく生活できる）　②確かな学力を身に付けさせる学校（学力の向上）
③夢をかなえる学校（自己の成長や良さが実感でき，夢と自信が育つ）　④美しい学校（環境，礼節，一生懸命が美しい）
⑤地域に貢献する学校（地域と連携して地域の活性化に貢献できる）

２　経営目標・評価指標・評価等

【評定　Ｓ：100%，Ａ：100%未満～90%以上，Ｂ：90%未満～70%以上，Ｃ：70%未満～50%以上，Ｄ：50%未満～0%】

	中期経営目標	短期経営目（達成目標）	評価指標	評価	成果（○）・課題（▼）等	今後の取組・改善策
確かな学力	○基礎・基本の学力の確実な習得，思考力・判断力・表現力の向上を図る。	○各種学力検査で，国または県の平均を上回る。 ・平均以上，または経年変化での向上を図る。	○生徒全員が国や県の平均以上，又は昨年以上の正答率。	B	○学校平均は県，国の平均を延１８教科のうち１４教科が上回った。 ▼「学力到達度検査」の活用力の問題において，延 10 教科のうち 9 教科が全国平均を上回ったものの 5~6 割の得点になっている ▼正答率３０％未満の生徒がいる。 ▼「学力到達度検査」において，1，2 年生とも無解答の生徒がいる。	・活用力を高める学習活動を取り入れる等，授業改善をおこなう。 ・ドリル学習でも，基礎学力の定着を図る問題だけでなく，活用力を高める問題も行い，日常的に課題に取り組ませる ・放課後などを利用し，個別指導を継続して行い，少人数を活かした細かな指導を継続する。
		○家庭学習習慣を定着させる。 ・２時間以上家庭学習を行う。	○生徒全員が，2 時間以上家庭学習を行っている。	C	○７月から 8.86 ﾎﾟｲﾝﾄ改善された。 ▼家庭学習をまったくしていないという生徒はいなくなったが，1 時間未満が 1 年に 2 人，2 年に 1 名計 3 名，さらに，1 時間以上 2 時間未満の生徒が 3 年に 5 名，2 年に 1 名，1 年に 3 名計 9 名いる。 ▼各学年とも自主学習ノートや教科の宿題の未提出者が固定化していたり，登校後に宿題をしたりしている生徒がいる。 ▼家庭での学習の様子を把握していない保護者もおられる。	・復習や予習など，教科の学習と関連付けた家庭学習の課題を出す。 ・自主学習ノート等を利用し，家庭学習を充実させるように指導する。 ・放課後に補充の学習指導を行う。 ・細かな家庭連携を行い，学校の取組や子供の様子を共有し，協力して取り組む。
		○読書習慣を定着させる。 ・年間１５冊以上本を読む。	○生徒全員が，年間 15 冊以上本を読んでいる。(最終評価時は 2 月末 14 冊以上)	B	○7 月から 3.3 ﾎﾟｲﾝﾄ増えた ○6 名の生徒が年間 30 冊以上の読書をしている。 ○18 名の生徒は年間 14 冊以上 30 冊未満の読書をしている。 ▼「月に一冊以上は読む」ようにしていない生徒が 5 名いる。 ▼今年は朝読書を週 1 日としたため，家庭での読書習慣がない生徒の読書量が少なくなった。	・生徒の希望図書を購入したり，委員会活動の充実（新着図書の紹介や図書室の整理等）をはかったりして，読書への関心を高める。 ・教職員による本の紹介や推薦図書の展示などを行う。 ・読書週間を設定するなど期間を決めた目標設定を行い，読書習慣をつける。 ・読まない生徒への意欲付けをおこなう。
豊かな心	○礼儀や規範意識を身につけ，場に応じた行動のできる自律した生徒を育てる。	○場に応じた挨拶ができる。 ・レベル５の挨拶	○生徒全員が，式，朝会，授業，来客への対応等の場で，レベル 5 の挨拶ができている。	B	○1 学期調査と比べ，「地域の方に進んで挨拶をする」は 96.43%と 6.77 ﾎﾟｲﾝﾄ上昇し，ほとんどの生徒が意識して挨拶している。また，「授業」は 13.05 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟ，「校内」は 9.60 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟ，「来客」は 4.07 ﾎﾟｲﾝﾄﾏｲﾅｽの結果となった。 ○生徒会代議員会による下校時のあいさつ運動や生徒会執行部の呼びかけなどにより，意識してきている。	・「レベル５の挨拶」の達成基準を再確認し，意識付けを図る。 ・「場に応じた挨拶」を心がけさせる。 ・引き続き，生徒会の自治活動として挨拶運動に取り組む。
		○ルールを守って生活できる。 ・校則，時間	○生徒全員が，校則と時間を守っており，掃除や身の回りの整理整頓ができている。	A	○1 学期調査と比べ，「時間いっぱい」は 6.77 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟ，「靴，下駄箱」は 2.95 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟ，1 学期調査と比べ，「校則」は 3.02 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟ，「時間」は 3.57 ﾎﾟｲﾝﾄﾏｲﾅｽし，全体としては変化なしだった。 ○生徒指導部が取組目標を示し，生徒会執行部が朝会で呼びかけたり，掃除リーダーが掃除前後にミーティングを行ったりして意識付けを行った。 ○教職員が時間の意識をもって行動するとともに，生徒指導部が月間取組目標を示し，組織的に取り組むことにより，生徒に意識させることができた。 ▼教室及び体育館のロッカーの整理ができていない。	・引き続き教職員が時間の意識をもって行動し，時間を意識した行動ができるように生徒を指導する。 ・２分前には授業準備を終えて，自分の席に座っておくよう，指導を継続する。 ・全体指導と個別指導を確実に行うとともに，生徒リーダーが呼びかけなどを行うなど生徒会と連動して取組みも行う。 ・無言で，時間いっぱい掃除ができるよう掃除リーダーを中心にレベルアップを図る。 ・教室，体育館の個人ロッカーを整理させる。
	○自己肯定感を高め，思いやりの心をもった生徒を育てる。	○生徒が「自分には良いところがある」「周りから認められている」と感じている。	○生徒全員が，自分のことを肯定的に自己評価し，周りから認められていると感じている。	B	○1 学期調査と比較し，「自分に良いところがある」は 13.05 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟし，「周りから認められている」は 2.34 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟした。全体として 7.69 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟした。 ○指導者が積極的に肯定的な評価をするとともに，学習相談や学級の集団づくりを進め，自己理解と他者理解を進めることができた。 ○生徒全員が，各種検定やコンクール，スポーツ大会に挑戦し，生徒全員が何らかの賞状を手にすることができた。 ▼「自分に良いところがある」は 2 割強の生徒が，「周りから認められている」は 3 割強の生徒が否定的な評価となっている。他者からのよい評価を実感できていない。	・生徒全員に「挑戦する」，「失敗をおそれない」という意識を持たせ，様々なことに挑戦した過程もしっかり評価し，自信を持たせる取組を継続する。 ・学級の集団づくりや個別の学習相談の場を設定して，自己理解と他者理解を進める。 ・集団活動の場面で，生徒同士の認め合いや，肯定的な評価をしあう場面を増やす。 ・特に，教師が積極的に肯定的な評価を行う
健やかな体	○基礎体力を向上させ，活力ある生徒を育てる。	○基本的な生活習慣が身についている。 ・朝ごはんの定着	○生徒全員が，朝食をとり，給食を残さず食べている。	B	○調理場栄養士と連携した食育指導を年間を通して継続して実施できた。 ○夏休みの「課題として弁当作りに取り組ませ，食に関する意識付けが図れた。 ▼朝食を毎日食べていない生徒が 4 名いる。 ▼朝食を摂っていない生徒への個別の対応が必要。特に，保護者に自分の子供の学校での様子を伝え，連携して取り組むことが必要。	・調理場栄養士と連携し，食の大切さについての学習や保護者への啓発活動を継続する。 ・朝食を摂らない生徒が固定化しており，保護者と連携し対応する。 ・保護者に自分の子供の様子を伝え，連携して取り組む。
		○ワンステップタイムを充実させる。	○生徒全員が，体力が向上したと感じている。	S	○11 月から，3 年生が参加せず，放課後実施となり，1，2 年生が全員参加することができた。	・引き続き，担当者（進行リーダー）を明確にして，スポーツテストの結果を活用した運動内容や基礎体力を向上させる内容を設定し，継続して取り組む。 ・指導者が参加に向けた声掛けを行う。
信頼される学校	○学んでよかった思える学校にする。	○生徒が授業や学校生活に満足している。	○生徒全員が，「授業はわかる」「学校が楽しい」と肯定的に評価している。	B	○1 学期調査と比較し，「授業はわかる」は 9.63 ﾎﾟｲﾝﾄﾏｲﾅｽ，「学校は楽しい」は 2 学期調査からは改善したものの 7.39 ﾎﾟｲﾝﾄﾏｲﾅｽだった。	・来年度，つけたい力を「コミュニケーション，主体性，自らへの自信」とし，すべての教育活動で取り組む。 ・授業研究を充実させる。 ・課題解決・発見学習の手法を活用し，生徒同士の関わり合いから学びを深める授業づくりに日常的に取組む。 ・自己存在感が持てる活動を日常の中にも設定する。 ・学習相談等の個人面談を定期的に行う。
		○保護者が本校教育に満足している。 ・安心と満足	○保護者全員が，「安心」して学校に通わせており，教育活動に「満足」していると肯定的に評価している。	B	○1 学期と比較し「安心して通わせている」は 6.73 ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟ，「満足している」は 15.06 ﾎﾟｲﾝﾄのﾏｲﾅｽとなった。 ▼「安心して通わせている」の評価は 6.73 ﾎﾟｲﾝﾄ改善し，生活面での指導や保護者との連携等で一定の安心感を得られていると考えられ。一方で，学力定着への不安や教職員の指導に対する不安を感じている保護者がいる。	・各種通信やＨＰ等で情報提供を行う。 ・教職員が生徒の様子について情報を共有し，学年会を中心に組織的な対応を行う。また，生徒理解の研修等を通して，教職員が適切に指導できるようにする。 ・保護者連携を細やかに行う。 ・ドリル学習，補充学習等による基礎学力アップとともに，家庭と連携して家庭学習の定着を図り，学力向上を図る。